

農林物資規格調査会部会議事概要

日時：平成16年11月29日（月）

14：00～15：45

場所：農林水産省第2特別会議室

部会長	素材の日本農林規格の見直しについて、審議を行いたいと思います。 それでは事務局からご説明をお願いします。
事務局	（資料2のP.3～6について説明）
部会長	今まで出てきた用語等でわからない所がありますか。
委員	ハンマーで叩いて振動を測るのは分かるのですが、それはどういう 風なものがどう分かるのですか。
部会長	単純に言いますと高い音ほど強度的に優れています。その元になる のがヤング率というものになります。重量と音から計算が出来るよう になっています。そうすると、どれくらいの強さの材が平均的に得ら れるだろうと、強さという用語弊がありますが、たわみやすさと言う か変形しやすさと言うのがだいたい分かってくると言うことです。強 度でいろいろな事を設計したりする時のおおもとなるような物が、 非常にラフですが分かると言うことです。 素材というのは簡単に言いますと木材を切り倒した時に皮が付いて いる状態の物を素材とここでは言います。それから入り皮と言うのは 成長の過程で材の中に皮が入っていたりする事です。曲がりというの は、文字通り材が曲がっている物のことです。
委員	高い音ほど優れていると言うことでしたが、水中貯木と言うのが出 てきましたが、水からあげて乾燥させてから音を測るのですか。
部会長	水が重量に入っていますのでその様に計算すれば良いのです。乾燥 させると重量も減りますし音も高くなります、水分が十分あるとき には重くて低い音がします。 水中貯木というのはよろしいですか。材が妙な形をしていると測ろ うにも測れない訳で測定の仕方が書かれていると言うことだと思いま す。
委員	高い音というのは人間の判断ですか。

部会長	周波数を測定します。周波数が高いと高い音と言うことです。続いてご説明お願いします。
事務局	(資料2のP. 7～34について説明)
部会長	荒っぽい説明になるかも知れませんが若干説明させて頂きたいと思います。 まず素材は木材があるとそれを切って皮が付いた状態で置いてある丸太を素材と言います。このための規格であると言うことです。何故この規格に寸法や欠点が出てくるのかと言いますと、寸法については、木材は体積で取引しています。丸太は地面の方を元と言ひ先の方を末と言ひます、一般的には元が太く末が細いのでその体積をどうするのかと言うときに決め事がないとそれぞれバラバラの計算方法になります。JASでは末の径で長さをかけて出していると、しかも最小の径でとりますと言うのが基本になると考えてください。丸太はいろいろな形をしていますのでそれなりのルールを決めておかないと取引上でトラブルが起こるのでJASで決めていくというのが重要な所だと思います。内容は基本的に変わっていませんと言うことです。 2点目は欠点がいろいろ出てきますが、内容は基本的に変わっていないんですが見やすいように表にしたと言うことです。 欠点の説明がないので付けないといけないのかなと思いますが。一般的な欠点の定義は解説にあるのですかね。少しご検討頂いた方が良くと思います。 入り組んでいるように見えますが内容は比較的単純に出来ています。旧来と違っているのは縦振動区分が入ってきたと言うことです。
委員	補足なんですが、間違っているかも知れませんがこう考えればいいと自分では思っているのですが、材積の計算方法で直径の2乗はどうしてかと言うのは、半径の2乗にπをかけますと$(\pi/4)D^2$になります。$\pi/4$は0.8くらいになります、これは末口で測ってますので実際はもう少しあるだろうと言うことで、2割くらい増しましたと言うことで私は理解してます。
部会長	自然の物なのでそれなりのルールを決めておかないと混乱するので、JASで決めておこうというのが一番重要な所であろうと思います。値段にも影響するので体積の求め方や径の測り方という物を入れておこうと言うのがJASの極めて重要な所であろうと思います。
委員	体積の所で長さを6mで切っていますよね、6mより長い方が得な

のか損なのか分からないですが、長い方が得な場合にギリギリ長くまですると言うことが・・・。

部会長

まず木が立っていて切り倒しますよね、一般的にはそれを切ってくるんです。それが6 mと言う風になっていると言うことです。

委員

そうすると6 m以上というのは5本取れる所が半端が出たときと言うことなのですか。

部会長

一般的にはどう言う所に使うのかと言うことで長さが決まってくるのですが、と言っても若干いろいろな長さが出てきたりするので、と言うことです。

委員

現実的に使われる木は何mくらいが標準なんですか。それぞれの木を無駄なく切っていくと思うんですが、6 mと言うのが一般的なのですか。

委員

今のご質問は木を切るときに6 m以上に切った場合と6 m以下に切った場合で損得があって矛盾が出るのではないと言うことですよね。実際丸太の切り出し方ですがいろいろな用途がありまして、例えば建築用の柱なら3 m、4 mと商習慣上で寸法が決まっています。中途半端な寸法で出しますと買った製材所は凄く損をします。それぞれの用途に使うかによって長さが決まってくると、木を切るようすれば得する損すると言う話ではないのです。

部会長

6 mを超える物はかなり特殊だと考えていただいて結構だと思います。

委員

確認なんですが、P.5の3で外材にも対応するとなっていますが、相対的に外材に対応してココがこう変わったと言うのは無いのですか。先程言われましたように全部そのままこの文章もOKになったのでしょうか。今までも対応されてて商取引上では行われていたことを文章で定義をしたという風に理解して良いのでしょうか。

事務局

實際上、国内の取引では日本農林規格の末口2乗法が広く使われています、外材についてはそれぞれの国が持っている規格もありますし、日本で輸入したときの慣例上の材積計算法とそれぞれいろいろあります。それは商習慣としては現実使われています、と言ってもJAS規格の中では末口2乗法しか書けないとなっていたことから第三者認証を得たければその計算方法も使えますよとしたのが今回です。

部会長

それぞれの計算法で換算しなければいけないんですが、実際は換算せずにその範囲内で取引を行っています、その時は何で計算したかを書きなさいと言う事を明記したと言うことです。

急に新たな方法を定義してこれに従ってやりなさいと言うことをやったという訳ではないです。

事務局

具体的にはP . 1 1の表示の方法の(2)の寸法又は材積と書いてある所のただし書きの所です。第5条というのが今まであった末口2乗法です。

部会長

新たに入った縦振動ヤング係数区分が入った背景は、木材をなるべく合理的に使おうと、弱い物は弱いなりの使い方がありますのでこれを丸太の段階で分けておくとか後々便利であると言うのが最近の木造のいろいろな建物を造る時に非常に重要になってきたと言うことです。そう言うことで丸太の段階で分けるにしてもルールを決めておかないとその数字があてにならないと言うことになります。よくこれは上だから強いとか言われますがそうではなくて選択するためには明確にしましょうと言うことです。

委員

言っても致し方なことも知れませんが、材積計算法が一番のスポットライトで皆がこれを使う訳ですが、その時には条件があってその材料が1等か4等か分からないですが、欠点を含めて非常識なとんでもない物ではないと言う前提でこの計算式が使えるわけですね。にもかかわらず、計算式だけ使うが他の所は使わずに年々格付率が下がっていくと、これは格付をするという前提でこの式が成り立っている訳ですから本文中は「標準的な計算法は」と書くのではなくて、この規格に合った材料はこの式を使うということにして格付の表示が必ず消費者の目に触れると、正当な取引がなされて品質もそれなりの物だと分かるようにすべきではないかと思うのですが。この調査をされたときに格付をお聞きになったときに、私はいつも言うのですが前提を飛ばして良い所だけとっていると言う答えの調査結果だけを見せられるのは非常に面白くないのです。良い所も悪い所も全部どういう状況で格付がどうなっているかと言う事を教えていただきたいと言う要望です。

事務局

今のご指摘ですが、格付する場合なんですがP . 1 0の表示事項に「次に掲げる事項を表示してあること」と言うことで、(1)等級、(2)寸法又は材積と言うことで、これはやってくださいよと言うことにしております。等級についてはこの規格の中で等級付けした物を

使ってくださいと、先程の縦振動ヤング係数については強度を測りますのでこれについては等級は必須事項ではないとしております。表示をする場合に等級又は縦振動ヤング係数の強度的な区分については記載するということになっています。格付をしない人が標準的な材積を使う分にはJAS法の外の世界になりますので、そこに何かをするというのは難しいと思います。

部会長

〇〇委員が言われたのは、ここの所の特に今回規格におとすとするなら表示が何であるかという事を言っておられるのですか。

委員

この計算式を使って商取引がされているというのが現状だと思うのですが、それには前提があって曲がりが凄いとかが無いと言うことで、プロ同士の取引であればそれはよいと思うのですが、一応この規格に基づいてと言うことで格付率をご質問されるときにはそう言うやるべき事をやった品質の物でこの計算式を使っていますかと言う答えを出させて欲しいんです。そうでないと他のJASの規格が格付が減っていると言うことでどんどん廃止になっているのもJAS規格の中のある1項目だけ、都合の良い所だけとってこうやられているケースが多いんですよ、確かに全部守って全部この通りやって表示するというのは、コストの問題もあるので分からないでもないですが、格付は1%未満でほとんど無いとか言う状態でJAS規格だけ残せというのは非常に矛盾した意見ではないかと思うんですが。取引するときにこれがベースになっているのであればやはりベースになっている所をキッチリ約束して貰うと言うことではないかと思います。

在来木造でほとんどがJASマークのスタンピングはされていないのです、されていなくてもそれは建築基準法上違反ではないですが、強度表示がない、強い所は強い用に弱い所は弱い用にとヤング表示するようになっていても表示せずに行ってしまうと言うことが成り立つ訳です、消費者にここは強い材料を使ってるんだなと見えるようなシステムを普及させないといけないと思います。規格が悪い訳ではないのですが運用上と言うことです。

部会長

建築の世界に関わる現実の運用の中ではJASマークが付いていなくても出来るという事もない訳ではなかった訳ですので、だんだんそういうものがないと計算に乗らないと言う建築物も出来てきていますので、この辺りの所は運用の話だろうと思います。いずれにしても規格はチャントあって格付率が上がってくる・・・。

委員

規格が悪いと行っている訳ではないのです。この表に出てくる格付率の調査をされるときに啓蒙を促すというようなことをしなくてははい

けないのではと言うことです。

委員

規格から外れた話かもしれませんが、1等～4等まで決まりましてそれが全部柱に大丈夫という物なのですか。何等を柱に使っているから大丈夫ですよという風なことが消費者には全然分からないのですが。柱にはこれまでしか使えませんよという風なことを啓蒙していただかないとよく分かりません。

部会長

簡単に言いますと、これの1等と2等と3等でレベル的には上と下という形になると思うのですが。これから製材となる訳なんです、製材してから柱になった段階で又区分されます、製材の規格がありますので、これは製材される前の段階ですので商取引上で使われていると言うのがイメージだろうと思うんですが。

委員

売る側と製材業者さんとの間の規格だと思っていただいて良いと思います。

委員

そう決めつけるのは今の時代に無理があると思います。今は直接インターネット等で山元の人が直接消費者に物を売ると、今の消費者は直接山へ行ってこの木は良いとか悪いとかどこまで判断できるか分からないですが、そういう風な直接取引が起こりうるような時代が来ているのですからやはり誰でもが分かるようにやらなくてはいけないのではないですか。

部会長

丸太でそういう風に運用できるようになると本当は一番良い訳ですけれども。あの山のあの木を買いたいとなった時にJASを持っていたらこれは何等ですねと選択していただく事は非常に望ましいことだろうと思いますが。今の段階ではそこまで行っておりませんのでどうしても商取引的な内容になっているという風に考えていただければよいのではないと思いますが。決して素人が全く使えないものであっては困りますのです。

委員

用語で分からないんですが、「へび下り（へびさがり）」とは何でしょうか。

委員

丸太が林の中で生育するときにその樹種単独である訳ではないのですね、ツタなどがあります。それがかなり太い物であればその影響で溝が出来てしまいます。その木を利用しようとして伐採した時に溝が出来ていると考えていただければよいと思います。

部会長

いろいろなものが絡んだりしていますので。必ずしも綺麗にまん丸

になる物はまず無いものですから、欠点だと言われても困るのでこういう欠点はこういう物ですと定義したということです。欠点の用語を付けて貰った方がよさそうですね。

委員

製材・丸太のISOの方で国際的な規格を作ろうとしています、その中で一番大変なのが丸太については各国或いは同じ国でも地方によっていろいろな表現がありまして非常に難しいのです、これを統一しようとしているのですがかなり困難しています。法律の範囲ではなくて簡単な解説であれば出来ると思うんですが、規格の中で定義するのは困難な場面があるのではないかと思います。

部会長

単純に分からなかったのもそこが気になったのです。品質の基準に何%と言う数字が出てきているので程々の定義がないと説明が苦しいかなと思います、その辺は工夫していただいた方が良いかも知れませんが、あまり厳密なことをしてしまいますと今度は具合が悪くなりますし、しかし全く分からないと言うのも困ります。

委員

こういう物などを言うとする事もできるかもしれませんが、それが馴染むかどうか分からないですが。

事務局

内部で検討しまして考えたいと思います。

部会長

ご意見出尽くしたということいかがでしょうか。

ご了承頂いたということでJAS調査会に報告したいと思いますが、よろしいでしょうか。ご了承頂いたということでJAS調査会に報告したいと思います

以上で本日予定しておりました議題の提案は全て終了致しました。どうもありがとうございました。